

群馬県北部の高校生の将来帰還意向に関する研究

前橋工科大学 学生会員 ○角野 康太郎

前橋工科大学 正会員 森田 哲夫

1. はじめに

群馬県北部の吾妻地域・利根沼田地域は中山間地域であり、人口減少や少子高齢化が進行している。北部地域での高校生の移動実態を把握するために、2015 年、2016 年に実施された群馬県パーソントリップ調査(以下 PT 調査)では世帯票・個人票・補完票を用いた本体調査と、北部地域 12 市町村、13 高校にて付帯調査「高校生の通学手段に関するアンケート調査」が行われた。

居住意向は現在居住する市町村に住み続ける、もしくは将来現在居住地以外の群馬県県内に帰還する帰還意向と群馬県に将来帰還しない非帰還意向に分類する。まず、高校生アンケート調査から北部地域の交通特性や通学特性・居住意向を基礎分析する。次に高校生の居住意向や交通特性、学校の特色、居住地特性の観点から見た要因から、将来的に群馬県に帰還する帰還意向に着目し、定量的に分析することで高校生の帰還意向の要因を明らかにする。以上の点が本研究の目的である。

帰還行動・帰郷行動に関する研究としては、農山村地域を中心に多く行われている。吉迫¹⁾らは帰郷者の実家とのつきあいから、帰郷行動の特徴を見出し、所要時間と住環境が帰郷頻度に大きな影響を持つとした。森川²⁾は現在年齢と帰還予定時期の観点から帰還意向を4つに類型化し、都市および農山村の環境に対する評価を行い、帰還者は定留者に比べ、農山村の住みよさを高く評価し、定住意向も強いとした。他にも片田ら³⁾が町転出者は町居住者よりも町の生活環境に関する不満意識が高く、転出することでその不満を解消する実態があることを明らかにした。

上記の帰還意向に関する研究の対象者は農山村地域の幅広い年齢層なのに対し、「高校生」といった若い年齢層に絞った帰還意向の研究は少ない。また、PT 調査の結果を用い、5000 人にのぼる大規模な調査データ（全数調査）を用い分析を行うことが本研究の特徴である。

2. 研究の構成とフロー

図-1 が研究フロー図である。1. 現況分析では国勢調

査やPT調査などの集計値データを基にした分析を行い、
2. 高校調査の取りまとめでは調査票の情報整理を行う。
そして3. 高校調査の分析以降が研究の主要部分となり、
主に高校調査の調査票を用いて、北部地域の高校生の
帰還意向を分析する。

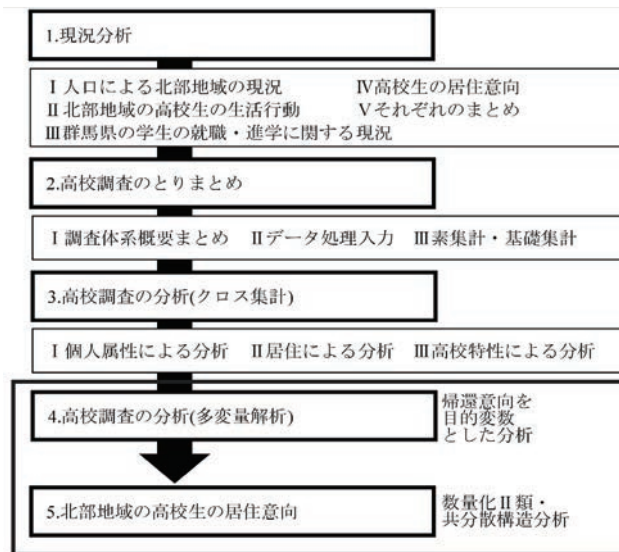


図-1 研究フロー図

3. 研究方法

(1) 研究对象地域

研究対象地域は吾妻地域と利根沼田地域、渋川市を合わせた北部地域の計 12 市町村で 13 高校に通学する高校生を研究対象とする(図-2).

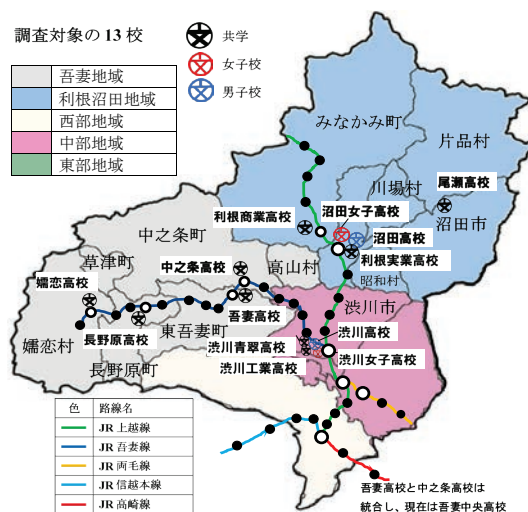


図-2 研究対象地域と研究対象高校

キーワード パーソントリップ調査, 高校生, 通学, 帰還意向

連絡先 〒371-0816 群馬県前橋市上佐鳥町 460-1 前橋工科大学 地域・交通計画研究室 TEL. 027-265-7362 E-mail: tmorita@maebashi-it.ac.jp

(2) 現況分析

研究の準備段階として、基礎分析である現況分析を5段階に分けて行い(図-1)、群馬県北部地域の特色・特性を人口・交通・高校生の生活行動・進学などの点から定量的に分析した。北部地域の高校生の通学目的の分布交通量をみると、北部地域の中心部である渋川市に通学が集中していることがわかった。

4. 分析結果

(1) 将来居住意向の理由

アンケートの基礎集計結果から、将来居住地の決定要因を図-1 にて示す。回答形式としては複数回答可である。1. 希望する仕事がありそうという理由が最も多く、20.6%であった。家族や親族、緑や自然の豊かさを要因とする割合も高い。一方で、鉄道・バス・車の利用しやすさや子育てのしやすさはあまり居住地決定要因としては回答されていないことがわかる。

表-1 高校生の将来居住意向の理由分析

カテゴリー	回答数	割合
1. 希望する仕事がある(ありそう)	1924	20.6%
2. 緑や自然の豊かさ	1054	11.3%
3. 商業施設などの便利さ	999	10.7%
4. 友達や知り合いがいる	967	10.4%
5. 家族や親族がいる	1453	15.6%
6. 現在居住市町村・群馬県が好き	953	10.2%
7. 鉄道やバスが利用しやすい	721	7.7%
8. クルマが利用しやすいそう	332	3.6%
9. 子育てがしやすいそう	220	2.4%
10. その他	415	4.4%

(2) 将来帰還意向の要因に関する数量化 II 類分析

帰還意向を目的変数として説明変数を個人属性、高校特性、進路希望、交通特性、居住地特性とした数量化 II 類理論を適用することで、高校生の帰還意向の要因を分析する。表-2 より最も帰還意向に影響する変数は進路希望であることがわかる。レンジと偏相関係数がどちらも最も高いからである。北部地域の中心都市部である渋川市との距離をみると、30km 以上離れている市町村の居住者は非帰還意向が高いことがわかる。また、将来居住意向の理由に着目すると、家族や親族、現在住んでいるところが好きと挙げた高校生は帰還意向が高いことがわかった。一方で、非帰還意向が高い高校生は、商業施設の便利さや鉄道・バスの利用しやすさなどを要因に挙げていることがわかった。

5. まとめ

北部地域の高校生の帰還意向に影響を及ぼす要因と

しては、主に高校卒業後の進路希望や都市部と居住地との距離、公共交通機関の利便性などであることがわかった。通学高校の設置学科も影響していると考えられる。山間部に居住する高校生の頭脳が流出しないためにも、高校生が群馬県内に留まるためには、どのような対策があるかを検討することが課題である。

表-2 高校生の帰還意向の要因分析

	アイテム	カテゴリー	スコア	レンジ	偏相関係数
高校特性	高校	1.進学	0.031	0.087	0.033
		2.就職	-0.015		
		3.山間部	-0.055		
個人属性	性別	男	-0.087	0.152	0.081
		女	0.065		
進路	進路希望	1.群馬県内に就職する	-0.533	1.438	0.447
		2.群馬県内に進学する	-0.294		
		3.群馬県外に就職する	0.905		
		4.群馬県外に進学する	0.605		
通学特性	代表交通手段	鉄道	0.020	0.142	0.040
		バス	-0.066		
		自動車	-0.024		
		自転車	-0.005		
		徒歩	0.076		
	都市部との距離 (居住地の市町村と渋川市役所との道のり)	10km未満	0.022	0.727	0.023
		10-20km	-0.030		
		20-30km	-0.005		
		30km以上	0.697		
	将来居住意向の理由	①希望する仕事がある	はい	0.242	0.397
いいえ			-0.155		
②緑や自然が豊か		はい	-0.149	0.190	0.080
		いいえ	0.041		
③商業施設などがあり、便利		はい	0.439	0.552	0.229
		いいえ	-0.113		
④友達や知り合いがいる		はい	-0.134	0.170	0.069
		いいえ	0.036		
⑤家族・親族がいる		はい	-0.409	0.610	0.261
		いいえ	0.201		
⑥現在住んでいるところが好き		はい	-0.458	0.576	0.233
		いいえ	0.119		
⑦鉄道・バスが利用しやすい		はい	0.344	0.407	0.147
		いいえ	-0.063		
⑧クルマが利用しやすい	はい	-0.139	0.150	0.041	
	いいえ	0.011			
⑨子育てしやすいそう	はい	-0.047	0.050	0.012	
	いいえ	0.003			
目的変数の重心	現在居住地(現在居住市町村)			-0.662	相関比
	現在居住地以外の群馬県内			-0.089	
	群馬県外			1.032	

謝辞：本研究で用いた付帯調査の貴重なデータを群馬県庁県土整備部都市計画課から提供を受けた。ここに感謝の意を表する。

参考文献

1) 吉迫武, 永井護：農山村への帰郷行動に関する実証的研究, 第 30 回日本都市計画学会学術研究論文集, 第 30 巻, pp.373-378, 1995

2) 森川稔：農山村における帰還者および新来者に関する分析 滋賀県高島郡朽木村における転出・帰還移動に関する研究・その 2, 日本建築学会計画系論文報告集, 第 353 号, pp.92-102, 1985

3) 片田敏孝, 廣島康裕, 青島縮次郎農山村住民の転出・帰還行動における意思決定の構造に関する研究, 第 24 回日本都市計画学会学術研究論文集, 第 419 号, pp.37-42, 1989